

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスWAKUWAKU (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日		2025年 10月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		2025年 10月 18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	さまざまな素材(松ぼっくり、どんぐり、石、貝殻、枝等)となるものを自然の中から一緒に見つけ、創作意欲の向上を期待し「できた」と実感できる体験を積み重ねる。また、5領域における運動・感覚・認知・行動を意識し、環境を整え各々の発達レベルに合わせた工作活動を行い、興味の幅を広げていけるように支援を行なっている。	「やってみたい」の気持ちを大切に、自主的に取り組めるような環境を整え各々の好きなキャラクターや色、形、素材を用意するようにすることで、意欲の向上に繋がるよう工夫している。	さらに情報収集を行いながら、各々の発達レベルに合わせ、興味の幅が広がるような工作に取り組めるようにしていく。
2	5領域における言語・コミュニケーション・人間関係・社会性を意識し、他事業所や地域等の繋がりを意識し、安心できる大人が一人でも多くいる環境が出来ることを大切にしている。	地域交流含め、他事業所との合同企画ではご家族参加型のものも開催し、ご家族も一緒に楽しめるような活動の提供に努めている。	地域行事や、興味の幅が広がるような体験や経験が行えるように、リサーチを行なっていく。
3	5領域における健康・生活、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性を意識している。当事業所は児童発達支援と放課後等デイサービス事業の多機能型である為、年上児童への憧れからの模倣、活動を通じて他者との関わり方、コミュニケーション力、社会性、協調性等を日々自然と身につく機会が多い。	異年齢児(同年代も同様)の関わりの際は、基本的に職員は見守りを行い必要に応じて介入することで、自分で考え選択し行動に移せることを目標に関わるようにしている。	工作を含めさまざまな場面で経験のある年上児童から教えてもらえる環境を整え、相互に成長し合える関係性の構築を目指していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	平日の利用時間によっては、ホール等がない為、活動スペースが限られているので、室内で児童が思いきり身体を動かして活動することが出来にくい。	室内スペースに限りがあること。	さまざまな工夫や条件は必要になるが、近隣の公園や広場で活動する等の工夫が必要となる。
2			
3			